

稲村 I 遺跡

— 第 2 次発掘調査報告書 —

令和 5 年 3 月

株式会社みちのくクボタ

紫波町教育委員会

例 言

1 本書は、岩手県紫波郡紫波町高水寺字欠上り地内に所在する稲村1遺跡第2次調査について実施した緊急発掘調査に関する報告書である。

2 調査概要

- ・調査事由 株式会社みちのくクボタ店舗・整備工場建設工事に伴う緊急発掘調査
- ・調査期間 令和3年10月25日～令和3年12月13日
- ・調査面積 1235.3㎡

- 3 調査主体 紫波町教育委員会 教育長 佐美 淳
調査組織 紫波町教育委員会事務局 教育部長 八重嶋 靖
生涯学習課 課長 須川 範一
生涯学習係 係長 藤原 慎也
主任 岩館 岳
主任 上方 雄理
主任文化財専門員 鈴木 賢治

※調査担当及び本書の執筆及び編集は、鈴木 賢治が行った。

4 本調査は、株式会社みちのくクボタと紫波町教育委員会との間で締結された協定書に基づき、紫波町教育委員会が野外調査及び報告書編集を実施した。本調査に係る費用は事業主である株式会社みちのくクボタに支出していただいた。

5 調査区全景写真（ドローンによる空撮）及び、座標測量は（株）プラス測量設計に委託した。

6 土層図は、堆積の仕方を重視し線の太さを使い分けた。土層層相の色相観察は、「新版標準土色帖1998」小山 竹原著日本色研事業（株）を使用した。

7 本書に記載した地形図は、国土地理院発行の5万分の1日誌を使用した。

8 各遺構名と遺構記号は次の通り。

掘立柱建物跡—SB、土坑跡—SK、溝跡—SD、井戸跡—SE、不明遺構—SX、柱穴—P

9 座標数値 稲村1遺跡 第2次調査

基-1 X=-46597.372 Y=28836.912

基-2 X=-46547.000 Y=28840.000

10 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、紫波町教育委員会において保管している。

11 現場作業員及び室内整理作業員は、次の方々に参加・協力して頂いた。（五十音順・敬称略）
伊藤敬子、一戸幹夫、小川和晃、小澤功子、小田中裕香、川又達夫、工藤希理子、小松愛子、高橋洗介、谷村育子、豊田和香、西村由美子、松岡好一、八島一芳、吉田良二

目 次

例 言
目 次
本 目 次
挿図目次

表 目 次
写 真 図 版
抄 録

本 目 次

1 遺跡の環境	
(1) 位置	1
(2) 地形と地質	1
(3) 周辺の遺跡	2
2 調査の概要	
(1) 調査に至る経過	4
(2) 第2次調査の概要	4
3 調査の成果	
・調査区Ⅰ区	
(1) 検出遺構	5
(2) 出土遺物	11
・調査区Ⅱ区	
(1) 検出遺構	13
・調査区Ⅲ区	
(1) 検出遺構	17
(2) 出土遺物	34
4 まとめ	36

挿 図 目 次

第1図 稲村Ⅰ遺跡 位置図 (1:50,000)	1
第2図 周辺の主な遺跡 位置図 (1:20,000)	2
第3図 第2次調査 遺構配置図 (1:600)	4
・調査区Ⅰ区	
第4図 遺構配置図 (1:150)	5
第5図 SB-03~SB-05 掘立柱建物跡、SK-01 土坑跡、平面図・断面図	8
第6図 SK-02・SK-03 土坑跡、SX-01 不明遺構、平面図・断面図	9

第7図 P1～P66 柱穴 断面図	11
第8図 出土遺物	12
・調査区Ⅱ区	
第9図 遺構配置図(1:150)	13
第10図 SB-06 掘立柱建物跡、SK-04 土坑跡、SD-02 溝跡、SE-01 井戸跡、平面図・断面図	15
第11図 P67～P95 柱穴 断面図	16
・調査区Ⅲ区	
第12図 遺構配置図(1:150)	17
第13図 SB-07～SB-09 掘立柱建物跡 平面図・断面図	24
第14図 SK-05～SK-10 土坑跡 平面図・断面図	25
第15図 SK-11～SK-14 土坑跡 平面図・断面図	26
第16図 SK-15～SK-18 土坑跡 平面図・断面図	27
第17図 SK-19～SK-22 土坑跡 平面図・断面図	28
第18図 SD-03 溝跡、SE-02・SE-03 井戸跡、平面図・断面図	29
第19図 P96～P208 柱穴 断面図	32
第20図 P209～P320 柱穴 断面図	33
第21図 出土遺物①(1:2)	35
第22図 出土遺物②(1:2)	36

目 次

表1 周辺の主な遺跡一覧表	3
・調査区Ⅰ区	
表2 SK-01～SK-03 土坑跡 SX-01 不明遺構 埋土注記一覧表	10
表3 P1～P66 柱穴 規模一覧表	10
表4 出土遺物一覧表	12
・調査区Ⅱ区	
表5 SK-04 土坑跡、SD-02 溝跡、SE-01 井戸跡、埋土注記一覧表	16
表6 P67～P95 柱穴 規模一覧表	16
・調査区Ⅲ区	
表7 SK-05～SK-22 土坑跡、SD-03 溝跡、SE-02 井戸跡、埋土注記一覧表	30
表8 P96～P320 柱穴 規模一覧表	31
表9 出土遺物一覧表	34

写真目次

- 第1図版 稲村I遺跡 空撮 調査区 全景
- 第2図版 調査区I区 全景 調査区II区・III区 全景
- 第3図版 I区 SK-01～SK-03 土坑跡、SX-01 不明遺構、断面・完掘 I区作業風景
- 第4図版 II区 SK-04 土坑跡、SD-02 溝跡、SE-01 井戸跡、断面・完掘
- 第5図版 III区 SK-05・06、SK-09、SK-11、SK-14 土坑跡 断面・完掘
- 第6図版 III区 SK-15・SK-16、SK-17、SK-19 土坑跡 断面・完掘
- 第7図版 III区 SK-21 土坑跡、SD-03 溝跡、SE-02・SE-03 井戸跡、断面・完掘 作業風景
- 第8図版 I区 出土遺物
- 第9図版 III区 出土遺物①
- 第10図版 III区 出土遺物②

1 遺跡の環境

(1) 位置

本遺跡は、JR東北本線古館駅から東に約1.3km、岩手県紫波郡紫波町高水寺宇欠上り地内に位置する。遺跡範囲は南北に約228m、東西に約156mと推測される。

(2) 地形と地質

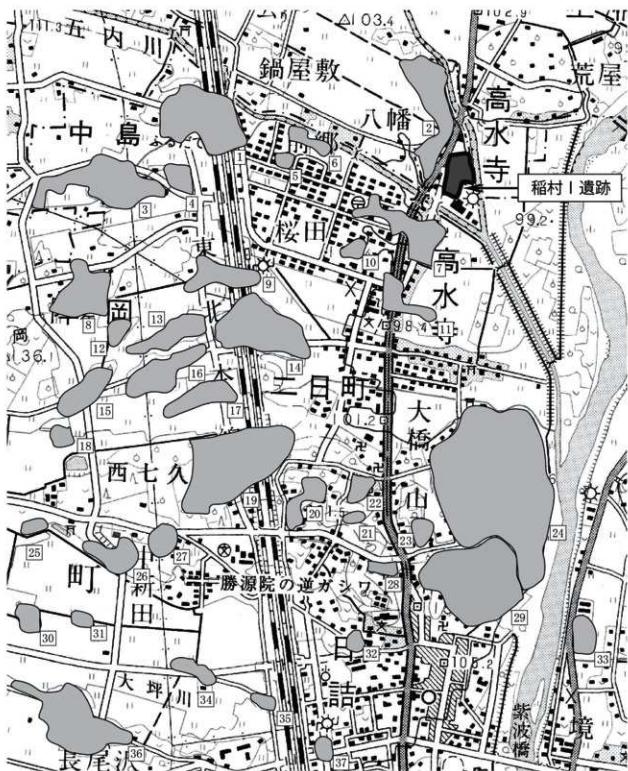
本遺跡の東側約0.65kmには、紫波町の中央を縦断するように北上川が南流する。平地は、西側一帯に奥羽山脈から流れ出て北上川に注ぐ滝名川・大坪川・五内川等の中小河川群によって、広く扇状地や氾濫低地が形成されている。北上川中流域西側の扇状地性段丘は、西根段丘・村崎野段丘・金ヶ崎段丘と大きく三分類されるが、紫波町内に相当するものとして、石鳥谷段丘・二枚橋段丘・都南段丘と命名された段丘群が知られている。



第1図 稲村I遺跡 位置図 (1 : 50,000)

(3) 周辺の遺跡

本遺跡の北側に稲村Ⅱ遺跡、南側に中田Ⅱ遺跡・古屋敷遺跡、西側に中田Ⅰ遺跡・古館橋遺跡、東側に西長岡長谷田遺跡などが所在する。また、紫波町内には、県指定史跡である川原毛瓦窯跡、舟久保洞窟、町指定史跡である陣ヶ岡陣営跡、樋爪館跡、高水寺城跡など貴重な遺跡が多く存在する。



第2図 周辺の主な遺跡 位置図 (1 : 20,000)

番号	遺跡名	所在地	種別・時代	遺物
1	古館橋	中島字落合	散布地・縄文・古代	土師器、須恵器、縄文土器、石器、鉄製品
2	稲村Ⅱ	高水寺字稲村	集落跡・古代	土師器、須恵器
3	上長根	中島字上長根、下長根、鷺内	集落跡・古代	土師器、須恵器
4	中島館	中島字鷺内	城館跡・中世	—
5	念仏堂	中島字前郷	寺院跡	—
6	中田Ⅰ	高水寺字中田	集落跡・古代	土師器
7	中田Ⅱ	高水寺字中田	集落跡・古代	土師器、須恵器
8	漆田	陣ヶ岡字漆田	集落跡・古代	土師器、須恵器
9	杉の上Ⅰ	陣ヶ岡字幅	窯跡・古代	土師器、須恵器
10	中田Ⅲ	高水寺字中田	集落跡・古代	土師器、須恵器
11	古屋敷	高水寺字古屋敷	散布地	—
12	平坊	陣ヶ岡字平坊	集落跡・古代	土師器、須恵器
13	蓮沼Ⅰ	陣ヶ岡字蓮沼	集落跡・古代	土師器、須恵器
14	杉の上Ⅱ	二日町字栗木田	集落跡・古代	土師器、須恵器
15	平坊Ⅲ	陣ヶ岡字平坊	集落跡・古代	土師器
16	蓮沼Ⅱ	陣ヶ岡字蓮沼	集落跡・古代	土師器、須恵器
17	川原毛	二日町字川原毛	集落跡・古代	土師器、須恵器
18	追分	二日町字追分	散布地	—
19	杉の上Ⅲ	二日町字七久保、陣ヶ岡	集落跡・古代	土師器、須恵器
20	善念寺山	二日町字北七久保	散布地・縄文・古代	縄文土器、土師器
21	善念寺山Ⅱ	二日町字北七久保	散布地・縄文	縄文土器、石器
22	善念寺山古墳	二日町字北七久保	墳墓・縄文	縄文土器、石器
23	山子	二日町字山子	散布地・縄文	縄文土器、石器
24	高水寺城（郡山城）	二日町字古館	城館跡・中世・近世	陶磁器・鉄製品
25	宮手追分Ⅳ	宮手字追分	散布地・古代	須恵器
26	日詰七久保	日詰字七久保	散布地・古代	須恵器
27	七久保	日詰字七久保	窯跡・古代	土師器、須恵器
28	戸部御所（西御所）	二日町字南七久保	城館跡・中世	—
29	吉兵衛館	二日町字向山	城館跡・中世・近世	陶磁器
30	高Ⅱ	平沢字高	散布地・縄文・古代縄文土器、土師器、須恵器	縄文土器、土師器、須恵器
31	日詰上新田	日詰字上新田	散布地・古代	土師器
32	日詰下丸森	日詰字下丸森	散布地・古代	土師器
33	間木沢	犬吠森字間木沢	集落跡・古代	土師器、須恵器
34	桜町下野沢	桜町字下野沢、紫波中央駅前二丁目	散布地・縄文・古代	土師器
35	日詰下野沢	日詰字下野沢	散布地	—
36	桜町上野沢	桜町字上野沢	散布地・縄文・古代	縄文土器、石器、須恵器
37	西裏	桜町字中桜	散布地・古代	土師器

表1 周辺の主な遺跡一覧表

2 調査の概要

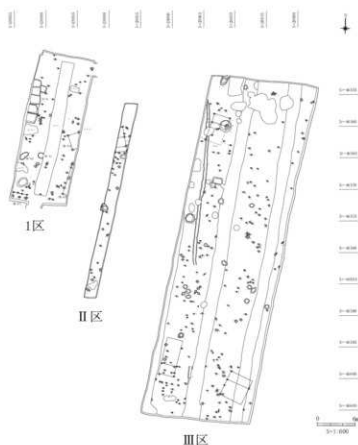
(1) 調査に至る経過

令和3年2月、調査地における株式会社みちのくクボタ店舗・整備工場建設計画に係る協議があり、周知の埋蔵文化財包蔵地「稲村I遺跡」に該当すること、同遺跡及び近隣遺跡での過去の調査結果から事業予定地には埋蔵文化財が包含されることが予測される旨回答した。その後、令和3年3月1日付けで土地所有者から試掘調査の依頼があり、同年4月27日に重機による有無確認調査を実施した。その結果、竪穴建物跡、土坑跡、溝跡、柱穴状遺構が検出され、土器・石器が出土した。工事実施により埋蔵文化財に影響を与えることが見込まれることから、事業者へ事業実施の際は記録保存調査を要する旨回答した。事業者から文化財保護法第93条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出の提出があり、岩手県教育委員会へ進達したところ、岩手県教育委員会から工事前に発掘調査を実施するよう事業者へ通知があった。事業者と調整の上、令和3年10月25日から記録保存調査に着手し、12月13日に現地調査を完了した。

(2) 第2次調査の概要

位置 国道4号から東に約0.1km、紫波町立古館小学校から北東約0.87kmに位置し、南北54.5m・東西44.2mの範囲を調査した。

検出遺構 掘立柱建物跡7棟、土坑跡22基、溝跡2条、井戸跡3基、不明遺構1基、柱穴320口
出土遺物 縄文土器、土師器、石製品、国産陶磁器、鉄製品、ガラス製品、その他

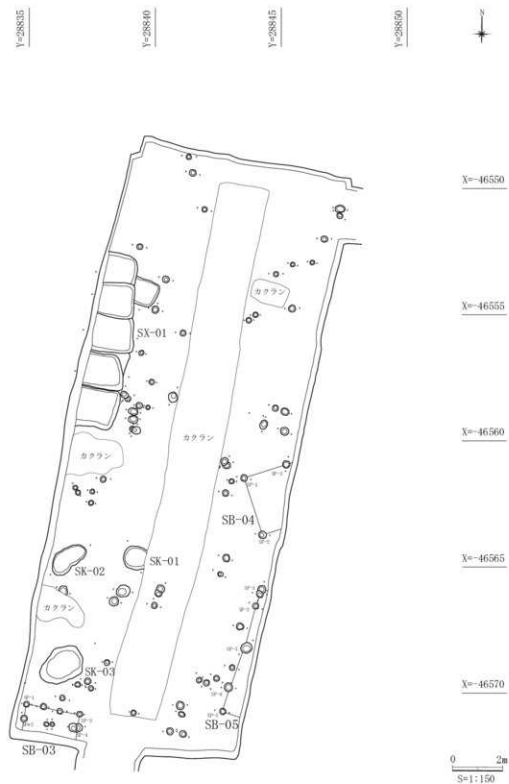


第3図 第2次調査 遺構配置図 (1:600)

3 調査の成果

・調査区 I 区

(1) 検出遺構



第4図 調査区 I 区 遺構配置図 (1:150)

・SB-03 掘立柱建物跡 (第5図)

位置	調査区南西側
平面形	桁行1間・梁間1間(長方形)
重複関係	なし
規模	北西-南東1間 2.15m(7尺2寸)、南西-北東1間0.61m(2尺)
棟方向	N10°W
柱間寸法	桁行SP-1・SP-2 0.58m(1尺9寸)、SP-3・SP-4 0.61m(2尺)、梁間SP-1・SP-3 2.11m(7尺)、SP-2・SP-4 2.09m(7尺)
柱穴	各柱穴の上端及び深さは、SP-1上端-0.23m・深さ-0.11m、SP-2上端-0.24m・深さ-0.09m、SP-3上端-0.21m・深さ-0.09m、SP-4上端-0.18m以上・深さ-0.38mである。
出土遺物	なし

・SB-04 掘立柱建物跡 (第5図)

位置	調査区西側
平面形	桁行1間・梁間1間(長方形)
重複関係	なし
規模	北西-南東1間 2.38m(7尺9寸)、南西-北東1間1.75m(5尺8寸)
棟方向	E17°E
柱間寸法	桁行SP-1・SP-2 2.38m(7尺9寸)、梁間SP-1・SP-3 1.76m(5尺9寸)
柱穴	各柱穴の上端及び深さは、SP-1上端-0.22m・深さ-0.12m、SP-2上端-0.28m・深さ-0.17m、SP-3上端-0.26m・深さ-0.11mをはかる。
出土遺物	なし

・SB-05 掘立柱建物跡 (第5図)

位置	調査区南東側
平面形	桁行4間・梁間1間(長方形)
重複関係	なし
規模	北東-南西4間 5.13m(17尺1寸)
棟方向	N13°S
柱間寸法	桁行SP-1・SP-2 0.71m(2尺4寸)、SP-2・SP-3 1.72m(5尺7寸)、SP-3・SP-4 1.68m(5尺6寸)、SP-4・SP-5 1.02m(3尺4寸)
柱穴	各柱穴の上端及び深さは、SP-1上端-0.24m以上・深さ-0.25m、SP-2上端-0.21m・深さ-0.15m、SP-3上端-0.44m・深さ-0.21m、SP-4上端-0.32m・深さ-0.25m、SP-5上端-0.21m・深さ-0.18mをはかる。
出土遺物	なし

・SK-01 土坑跡（第5図）

位置	調査区中央南側	平面形	不整形円形	重複関係	カクランに切られる
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.9m～0.91m以上、下端0.74m～0.8m以上、深さ0.19mをはかる。				
埋土	A層・B層に大別する。A層は2層に細分する。A層は黒褐色土、B層は暗褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

・SK-02 土坑跡（第6図）

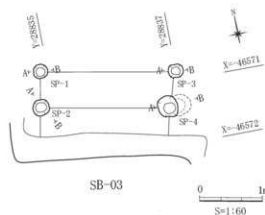
位置	調査区南西側	平面形	不整形円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.84m～1.57m、下端0.67m～1.44m、深さ0.11mをはかる。				
埋土	土 A層・B層に大別する。A層は黒褐色土、B層は暗褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

・SK-03 土坑跡（第6図）

位置	調査区南西側	平面形	不整形円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端1.35m～1.84m、下端0.95m～1.38m、深さ0.38mをはかる。				
埋土	A層～G層に大別する。A層は黒色土、B層は黒褐色土、C層は褐色土、D層は暗褐色土、E層はにぶい黄褐色土、F層は黄褐色土、G層は明黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

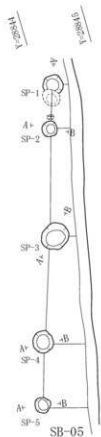
・SX-01 不明遺構ベルト①（第6図）

位置	調査区北西側	平面形	不整形長方形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端1.94m以上～6.97m、下端1.43m以上～6.64m、深さ0.19m～0.42mをはかる。				
埋土	A層～E層に大別する。D層は2層に細分する。A層は黒色土、B層は黒褐色土、C層は褐色土、D層は暗褐色土、E層は黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	国産陶磁器皿、石製品				



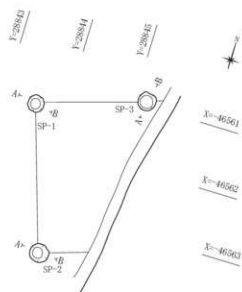
SB-03

0 1m
S=1:60



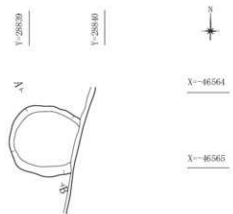
SB-05

0 1m
S=1:60



SB-04

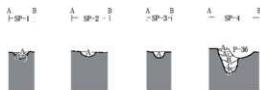
0 1m
S=1:60



SK-01

0 1m
S=1:50

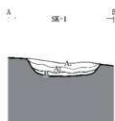
SB-03



SB-04



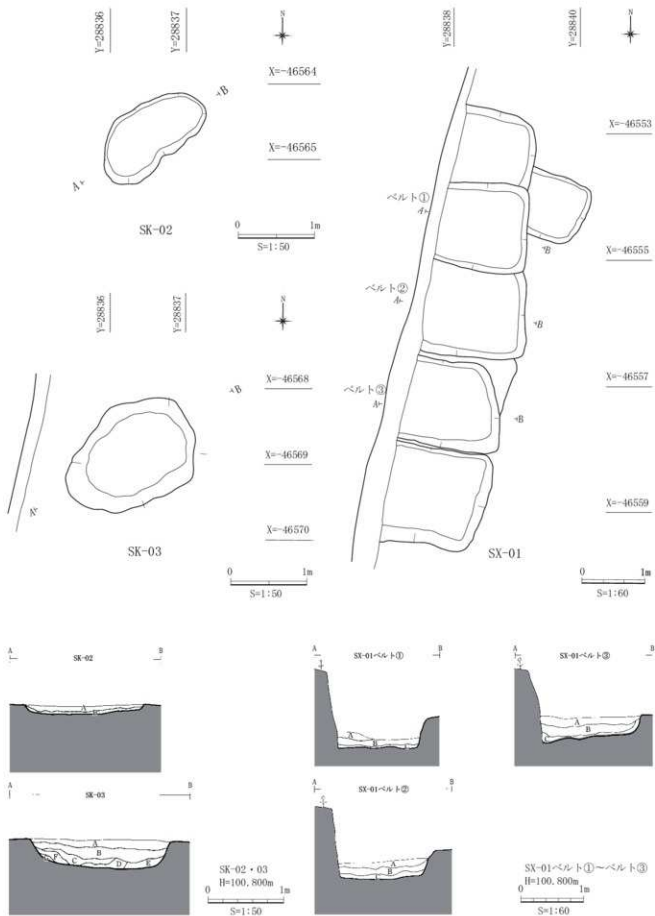
SB-05



SB-03~SB-05
H=100, 800m
0 1m
S=1:60

SK-01
H=100, 800m
0 1m
S=1:50

第5图 SB-03~SB-05 掘立柱建物跡、SK-01 土坑跡、平面図・断面図



第6図 SK-02・SK-03 土坑跡、SX-01 不明遺構、平面図・断面図

SK-01

A1	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
A2	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SK-02

A	黒褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SK-03

A	黒色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
C	褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D	暗褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
E	にぶい黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
F	黄褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
G	明黄褐色土を主体に、黒色土を粒状～塊状に締まりは中。

SX-01ベルト①

A	黒色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B	黒褐色土を主体に、色土を粉状～粒状に締まりは中。
C	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D1	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
D2	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
E	黄褐色土を主体に、黒褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

SX-01ベルト②

A	黒色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B	黒褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C	明黄褐色土を主体に、黒色土を粒状～塊状に締まりは中。

SX-01ベルト③

A	黒色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B	黒褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

表2 SK-01～SK-03 土坑跡 SX-01 不明遺構 埋土注記一覧表

P1～P66 柱穴 (表3・第7図)

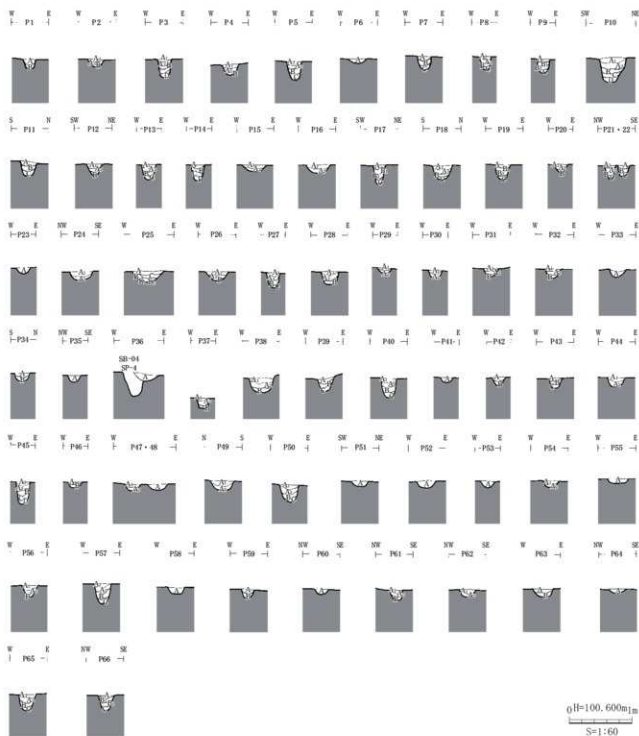
柱穴は66口検出した。また、埋土観察の結果、明確な柱痕跡を残すものは無かった。各柱穴の規模は次の通りである

No	上幅(m)	深さ(m)
P1	0.20	0.16
P2	0.26	0.13
P3	0.11	0.30
P4	0.26	0.17
P5	0.23	0.31
P6	0.27	0.08
P7	0.21	0.22
P8	0.19	0.22
P9	0.19	0.23
P10	0.43	0.40
P11	0.27	0.23
P12	0.24	0.18
P13	0.22	0.24
P14	0.21	0.25
P15	0.36	0.11
P16	0.37	0.13
P17	0.19	0.30
P18	0.31	0.22
P19	0.24	0.24
P20	0.21	0.14
P21	0.17	0.22
P22	0.18	0.17

No	上幅(m)	深さ(m)
P23	0.23	0.10
P24	0.36	0.14
P25	0.50	0.17
P26	0.36	0.15
P27	0.20	0.23
P28	0.28	0.21
P29	0.23	0.09
P30	0.21	0.12
P31	0.24	0.14
P32	0.25	0.15
P33	0.27	0.09
P34	0.24	0.13
P35	0.20	0.10
P36	0.40	0.11
P37	0.22	0.16
P38	0.38	0.23
P39	0.27	0.19
P40	0.25	0.30
P41	0.20	0.09
P42	0.21	0.14
P43	0.22	0.16
P44	0.27	0.14

No	上幅(m)	深さ(m)
P45	0.22	0.35
P46	0.21	0.09
P47	0.23	0.10
P48	0.30	0.09
P49	0.36	0.15
P50	0.30	0.27
P51	0.26	0.09
P52	0.29	0.12
P53	0.21	0.11
P54	0.24	0.10
P55	0.32	0.07
P56	0.24	0.29
P57	0.27	0.32
P58	0.25	0.10
P59	0.20	0.14
P60	0.21	0.08
P61	0.21	0.16
P62	0.25	0.11
P63	0.30	0.13
P64	0.26	0.06
P65	0.27	0.25
P66	0.25	0.24

表3 P1～P66 柱穴 規模一覧表



第7図 P1～P66 柱穴 断面図

(2) 出土遺物

調査区I区から、土師器・国産陶磁器・石製品などがコンテナで1/2箱出土した。その内、実測可能な出土遺物7点を図化し掲載した。

・土師器 (第8図)

検出面から3点。1は小型甕の体部～底部である。器高6cm以上、底径6.5cmをはかる。

外面ヘラケズリ調整、内面ヘラナデ調整を施される。2は甕の口～体部である。口径18.6cm、器高2.6cm以上をはかる。内外面口縁部ヨコナデ調整を施される。3は甕の口～体部である。口径16.4cm、器高2.5cm以上をはかる。内外面口縁部ヨコナデ調整を施される。

・国産陶磁器 (第8図)

検出面から3点。1は皿で、直径が13.8cmをはかる。2は碗で直径が9.6cmをはかる。3は碗で直径が11.4cmをはかる。いずれも近代以降のものである。

・石器 (第8図)

SX-01 (不明遺構) から1点。7は敲石である。縦5.9cm、横5.4cm、厚さ2.8cmをはかる。

土師器

番号	器種	遺構名	出土位置	形状	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	厚さ(cm)	備考
1	甕	—	検出面	ロクロ	体部～底部	—	6以上	6.5	0.7	外面ヘラケズリ調整、内面ヘラナデ調整
2	甕	—	検出面	ロクロ	口～体部	18.6	2.6以上	—	0.7	内外面口縁部ヨコナデ調整
3	甕	—	検出面	ロクロ	口～体部	16.4	2.5以上	—	0.4	内外面口縁部ヨコナデ調整

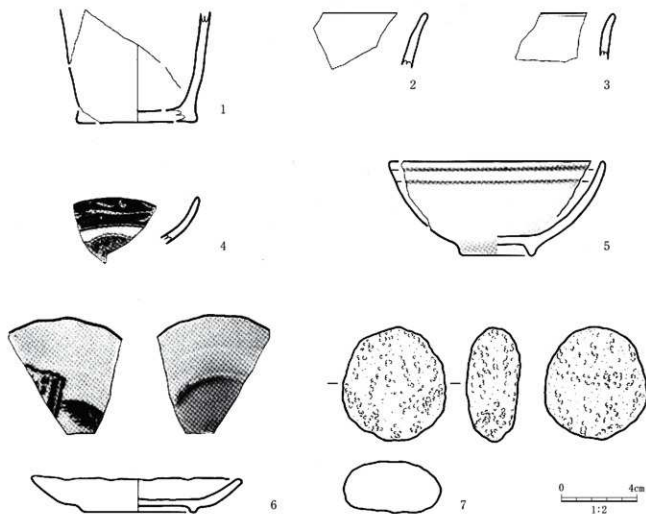
国産陶磁器

番号	器種	遺構名	出土位置	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	備考
4	皿	—	検出面	13.8	2.5	0.4	近代以降の陶磁器、製成印
5	碗	—	検出面	9.6	6.4	0.5	近代以降の陶磁器、口縁部に緑二重線
6	皿	—	検出面	11.4	1.8	0.5	近代以降の陶磁器、ゴム印刷、成沢口縁

石器

番号	器種	遺構名	出土位置	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	材質	備考
7	敲石	SX-01	A層	5.9	5.4	2.8	玄武岩	短軸側面に使用痕が認められる。

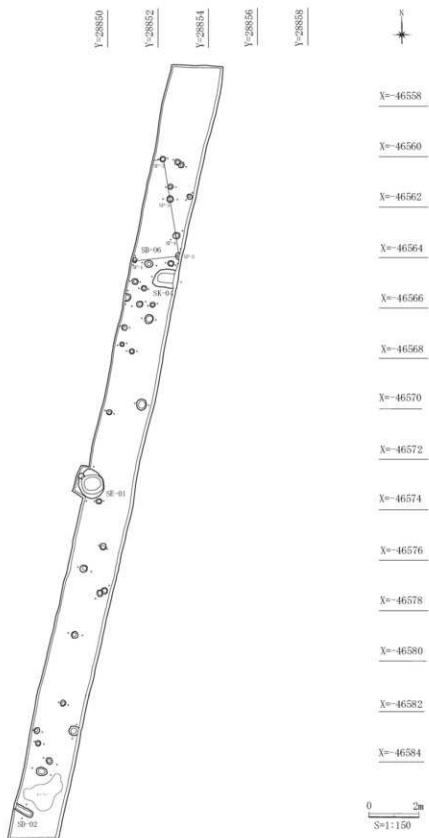
表4 出土遺物一覧表



第8図 出土遺物 (1:2)

・調査区Ⅱ区

(1) 検出遺構



第9図 調査区Ⅱ区 遺構配置図 (1:150)

・SB-06 掘立柱建物跡（第10図）

位置	調査区北西側		
平面形	桁行3間・梁間1間（長方形）		
重複関係	なし		
規模	北西-南東3間 3.91m（13尺）、南西-北東1間1.76m（5尺9寸）		
棟方向	N10° W		
柱間寸法	桁行SP-2・SP-3 1.62m（5尺4寸）、SP-3・SP-4 1.49m（5尺）、SP-4・SP-5 1.76m（5尺9寸）、梁間SP-2・SP-3 0.82m（2尺7寸）		
柱穴	各柱穴の上端及び深さは、SP-1上端-0.21m・深さ-0.06m、SP-2上端-0.22m・深さ-0.11m、SP-3上端-0.26m・深さ-0.22m、SP-4上端-0.25m・深さ-0.18m、SP-5上端-0.26m・深さ-0.24mをはかる。		
出土遺物	なし		

・SK-04 土坑跡（第10図）

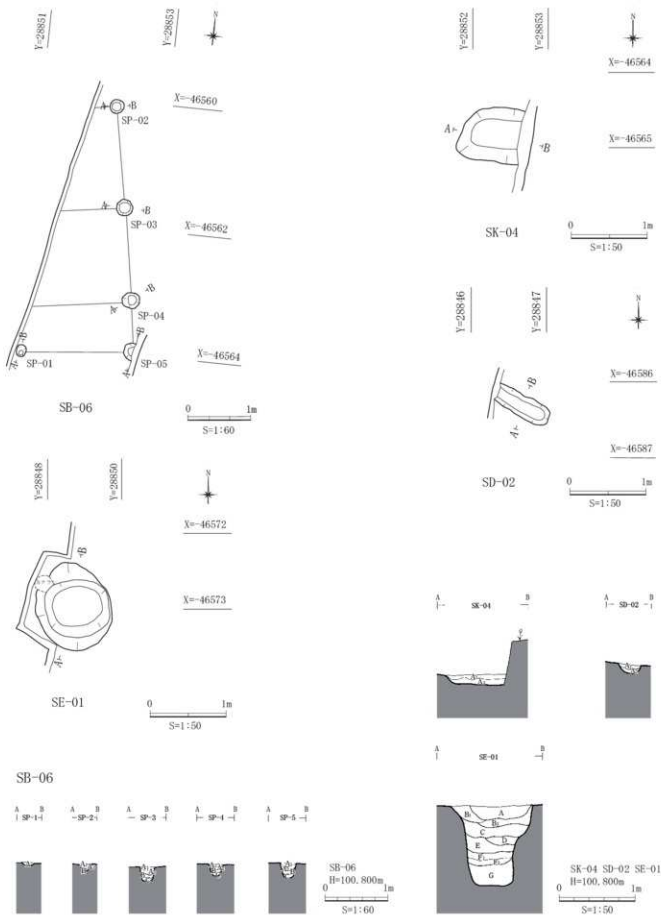
位置	調査区北東側	平面形	不整楕円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.75m～0.79m以上、下端0.75m～0.79m以上、深さ0.14mをはかる。				
埋土	A層に大別する。A層は2層に細分する。A層は黒褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

・SD-02 溝跡（第10図）

位置	調査区南西側	断面形	浅いU字状	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	緩やかに立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	全長0.79m以上、上端0.28m～0.30m、下端0.16m～0.19m、深さ0.12mをはかる。				
埋土	A層・B層に大別する。A層は黒褐色土、B層はにぶい黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

・SE-01 井戸跡（第10図）

位置	調査区中央西側	平面形	不整円形	重複関係	カクランに切られる
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	ほぼ垂直に立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.98m～1.17m、下端0.57m～0.66m、深さ1.04mをはかる。				
埋土	A層～G層に大別する。B層・F層2層に細分する。A層・E層は暗褐色土、B層・F層は黒褐色土、C層はにぶい黄褐色土、D層は褐色土、G層は明黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				



第10图 SB-06 掘立柱建物跡、SK-04 土坑跡、SD-02 溝跡、SE-01 井戸跡、平面図・断面図

SK-04

A1	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
A2	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SD-02

A	黒褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

SE-01

A	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B1	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B2	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
C	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
D	褐色土を主体に、黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
E	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
F1	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは軟。
F2	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粉状～粒状に締まりは軟。
G	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。砂を多く含む。

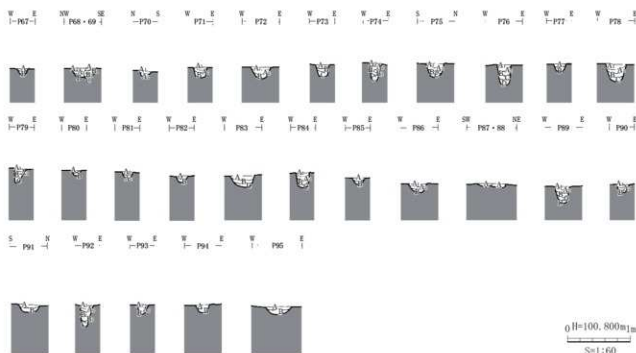
表5 SK-04 土坑跡、SD-02 溝跡、SE-01 井戸跡、埋土注記一覧表

P67～P95 柱穴 (表6・第11図)

柱穴は52口検出した。また、埋土観察の結果、明確な柱痕跡を残すものは無かった。各柱穴の規模は次の通りである。

No	上端(m)	深さ(m)	No	上端(m)	深さ(m)	No	上端(m)	深さ(m)
P67	0.16	0.09	P77	0.18	0.12	P87	0.24	0.05
P68	0.22以上	0.14	P78	0.32	0.27	P88	0.22以上	0.06
P69	0.16	0.17	P79	0.18	0.23	P89	0.24	0.36
P70	0.19	0.09	P80	0.14	0.08	P90	0.20	0.13
P71	0.21	0.16	P81	0.17	0.10	P91	0.35	0.12
P72	0.31	0.18	P82	0.19	0.10	P92	0.20	0.34
P73	0.21	0.19	P83	0.37	0.18	P93	0.12	0.15
P74	0.19	0.28	P84	0.20	0.23	P94	0.21	0.12
P75	0.28	0.21	P85	0.19	0.10	P95	0.40	0.12
P76	0.22	0.34	P86	0.29	0.23			

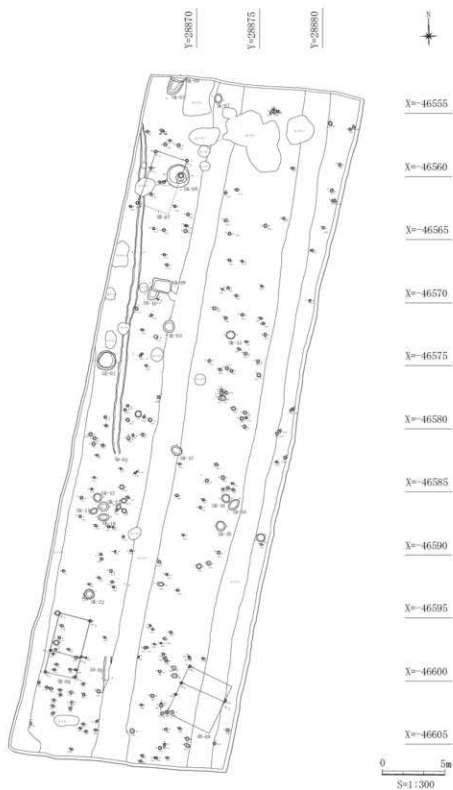
表6 P67～P95 柱穴 規模一覧表



第11図 P67～P95 柱穴 断面図

・調査区Ⅲ区

(1) 検出遺構



第12図 調査区Ⅲ区 遺構配置図 (1:150)

・SB-07 掘立柱建物跡 (第13図)

位置	調査区北西側
平面形	桁行2間・梁間1間(長方形)
重複関係	SK-08に切られる
規模	北東-南西2間 4.35m(14尺9寸)、北西-南東1間2.58m(8尺6寸)
棟方向	N19°W
柱間寸法	桁行SP-1・SP-2 1.37m(4尺6寸)、SP-2・SP-3 2.98m(9尺9寸)、梁間SP-1・SP-4 2.58m(8尺6寸)、SP-2・SP-5 2.49m(8尺3寸)
柱穴	各柱穴の上端及び深さは、SP-1上端-0.26m・深さ-0.17m、SP-2上端-0.21m・深さ-0.16m、SP-3上端-0.25m・深さ-0.15m、SP-4上端-0.25m・深さ-0.218m、SP-5上端-0.64m・深さ-0.62mをはかる。
出土遺物	なし

・SB-08 掘立柱建物跡 (第13図)

位置	調査区南西側
平面形	桁行2間・梁間1間(長方形)
重複関係	なし
規模	北東-南西2間 4.76m(15尺9寸)、北西-南東1間2.58m(8尺6寸)
棟方向	N12°W
柱間寸法	桁行SP-1・SP-2 3.02m(10尺1寸)、SP-2・SP-3 1.74m(5尺8寸)、SP-4・SP-5 2.94m(9尺8寸)、SP-5・SP-6 1.68m(5尺8寸)、梁間SP-1・SP-4 2.58m(9尺)、SP-2・SP-5 2.49m(8尺3寸)、SP-3・SP-6 2.38m(7尺9寸)
柱穴	各柱穴の上端及び深さは、SP-1上端-0.41m・深さ-0.21m、SP-2上端-0.21m・深さ-0.13m、SP-3上端-0.25m・深さ-0.16m、SP-4上端-0.21m・深さ-0.08m、SP-5上端-0.15m・深さ-0.11m、SP-6上端-0.21m・深さ-0.07mをはかる。
出土遺物	なし

・SB-09 掘立柱建物跡 (第13図)

位置	調査区南東側
平面形	桁行2間・梁間1間(長方形)
重複関係	カクランに切られる
規模	北東-南西2間 4.1m(14尺3寸)、北西-南東1間2.71m(9尺)
棟方向	N23°W
柱間寸法	桁行SP-1・SP-2 1.47m(4尺9寸)、SP-2・SP-3 2.63m(8尺8寸)、梁間SP-2・SP-4 3.71m(12尺4寸)
柱穴	各柱穴の上端及び深さは、SP-1上端-0.26m・深さ-0.14m、SP-2上端-0.21m・深さ-0.22m、SP-3上端-0.32m・深さ-0.11m、SP-4上端-0.25m・深さ-0.08mをはかる。
出土遺物	なし

・SK-05 土坑跡 (第14図)

位置	調査区北西側	平面形	不整楕円形	重複関係	SK-06に切られる
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端1.09m～1.14m以上、下端0.48m～0.76m以上、深さ0.47mをはかる。				
埋土	A層・B層に大別する。A層は2層に細分する。A層は黒褐色土、B層は暗褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

・SK-06 土坑跡 (第14図)

位置	調査区北西側	平面形	不整楕円形	重複関係	SK-05を切る。
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	ほぼ垂直に立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.39m以上～1.21m、下端0.27m以上～0.92m、深さ0.47mをはかる。				
埋土	A層～C層に大別する。A層は2層に細分する。A層は黒褐色土、B層は褐色土、C層は黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	鉄製品				

・SK-07 土坑跡 (第14図)

位置	調査区北側	平面形	不整円形	重複関係	カクランに切られる
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	ほぼ垂直に立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.6m～0.78m、下端0.45m～0.55m、深さ0.35mをはかる。				
埋土	A層～D層に大別する。A層は2層に細分する。A層は黒褐色土、B層は褐色土、C層は暗褐色土、D層は黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

・SK-08 土坑跡 (第14図)

位置	調査区北西側	平面形	不整円形	重複関係	SB-07を切る
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.74m～1.52m、下端0.79m～1.22m、深さ0.48mをはかる。				
埋土	A層～E層に大別する。A層は2層に細分する。A層は黒色土、B層は黒褐色土、C層は暗褐色土、D層は黄褐色土、E層は明黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

・SK-09 土坑跡 (第14図)

位置	調査区北西側	平面形	不整長方形	重複関係	SK-10を切る
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端1.02m～1.51m、下端0.79m～1.22m、深さ0.27mをはかる				
埋土	A層～E層に大別する。A層は2層に細分する。A層は黒色土、B層は黒褐色土、C層は暗褐色土、D層は褐色土、E層は明黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

・SK-10 土坑跡 (第14図)

位置	調査区北西側	平面形	不整楕円形	重複関係	SK-09に切られる。
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.86m～0.79m以上、下端0.57m～0.62m以上、深さ0.16mをはかる				
埋土	A層～C層に大別する。A層は黒褐色土、B層は暗褐色土、C層は黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

・SK-11 土坑跡 (第15図)

位置	調査区北東側	平面形	不整円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.61m～0.69m、下端0.53m～0.58m、深さ0.28mをはかる。				
埋土	A層・B層に大別する。A層は2層に細分する。A層は黒褐色土、B層は黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	土師器坏				

・SK-12 土坑跡 (第15図)

位置	調査区中央	平面形	不整楕円形	重複関係	カクランに切られる
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.65m～0.89m、下端0.42m～0.62m、深さ0.32mをはかる。				
埋土	A層・B層に大別する。A層は2層に細分する。A層は黒褐色土、B層は明黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	土師器坏・甕				

・SK-13 土坑跡 (第15図)

位置	調査区南西側	平面形	不整円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.64m～0.71m、下端0.51m～0.54m、深さ0.16mをはかる。				
埋土	A層・B層に大別する。A層は黒色土、B層は明黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	土師器坏				

・SK-14 土坑跡 (第15図)

位置	調査区南西側	平面形	不整楕円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.43m～0.59m、下端0.28m～0.43m、深さ0.17mをはかる。				
埋土	A層に大別する。A層は2層に細分する。A層は黒褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

・SK-15 土坑跡 (第16図)

位置	調査区南西側	平面形	不整円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	ほぼ垂直に立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.71m～0.79m、下端0.42m～0.49m、深さ0.34mをはかる。				
埋土	A層～C層に大別する。A層は2層に細分する。A層は黒色土、B層は黄褐色土、C層は明黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

・SK-16 土坑跡 (第16図)

位置	調査区南西側	平面形	不整楕円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.54m～0.89m、下端0.34m～0.57m、深さ0.26mをはかる。				
埋土	A層～D層に大別する。A層は黒褐色土、B層は暗褐色土、C層は褐色土、D層は黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

・SK-17 土坑跡 (第16図)

位置	調査区南西側	平面形	不整円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.39m～0.43m、下端0.28m～0.31m、深さ0.11mをはかる。				
埋土	A層に大別する。A層は2層に細分する。A層は黒褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

・SK-18 土坑跡 (第16図)

位置	調査区南東	平面形	不整形円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.64m～0.71m、下端0.48m～0.53m、深さ0.15mをはかる。				
埋土	A層・B層に大別する。A層は黒褐色土、B層は黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

・SK-19 土坑跡 (第17図)

位置	調査区南東側	平面形	不整形円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.67m～1.05m、下端0.47m～0.78m、深さ0.15mをはかる。				
埋土	A層に大別する。A層は2層に細分する。A層は黒褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

・SK-20 土坑跡 (第17図)

位置	調査区南東側	平面形	不整形円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.74m～0.77m、下端0.58m～0.61m、深さ0.15mをはかる。				
埋土	A層・B層に大別する。A層は黒褐色土、B層は暗褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

・SK-21 土坑跡 (第17図)

位置	調査区南東側	平面形	不整形円形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.59m～0.67m、下端0.48m～0.55m、深さ0.17mをはかる。				
埋土	A層～C層に大別する。A層は黒色土、B層は黒褐色土、C層は明黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	土師器甕				

・SK-22 土坑跡 (第17図)

位置	調査区南西側	平面形	不整形円形	重複関係	P167を切る
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	外傾して立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.76m～0.81m、下端0.46m～0.48m、深さ0.32mをはかる。				
埋土	A層～C層に大別する。A層は2層に細分する。A層は黒色土、B層は暗褐色土、C層は明黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	土師器甕				

・SD-03 溝跡 (第18図)

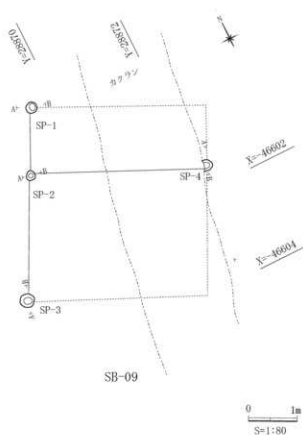
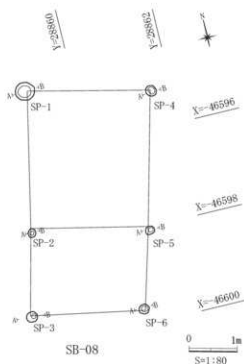
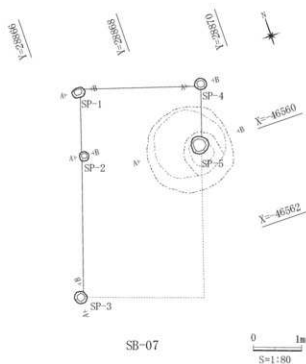
位置	調査区西側	断面形	浅いU字状	重複関係	カクランに切られる
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	緩やかに立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	全長20.63m以上、上端幅0.49m～0.65m、下端幅0.25m～0.35m、深さ0.09mをはかる				
埋土	A層に大別する。A層は黒褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				

・SE-02 井戸跡 (第18図)

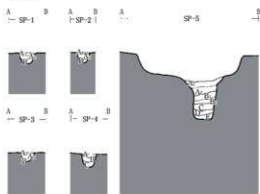
位置	調査区中央西側	平面形	不整形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	ほぼ垂直に立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端1.51m～1.65m、下端1.06m～1.65m、深さ1.44mをはかる。				
埋土	A層～J層に大別する。J層は2層に細分する。A層・E層・I層は暗褐色土、B層・H層・J層は明黄褐色土、C層・F層は黒褐色土、D層は黒色土、G層は褐色土を主体とする。				
出土遺物	国産陶磁器、ガラス製品				

・SE-03 井戸跡 (第18図)

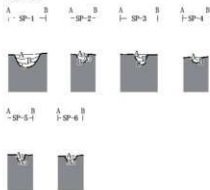
位置	調査区中央西側	平面形	不整形	重複関係	なし
掘込面	削平	検出面	黄褐色シルト層	壁の状況	ほぼ垂直に立ち上がる
底の状況	ほぼ平坦				
規模	上端0.89m～0.99m、下端0.61m～0.66m、深さ1.02mをはかる。				
埋土	A層～J層に大別する。A層・C層・F層・H層は黒褐色土、B層・E層・I層は暗褐色土、D層・G層は褐色土、J層は明黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし				



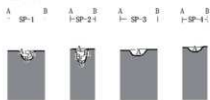
SB-07



SB-08

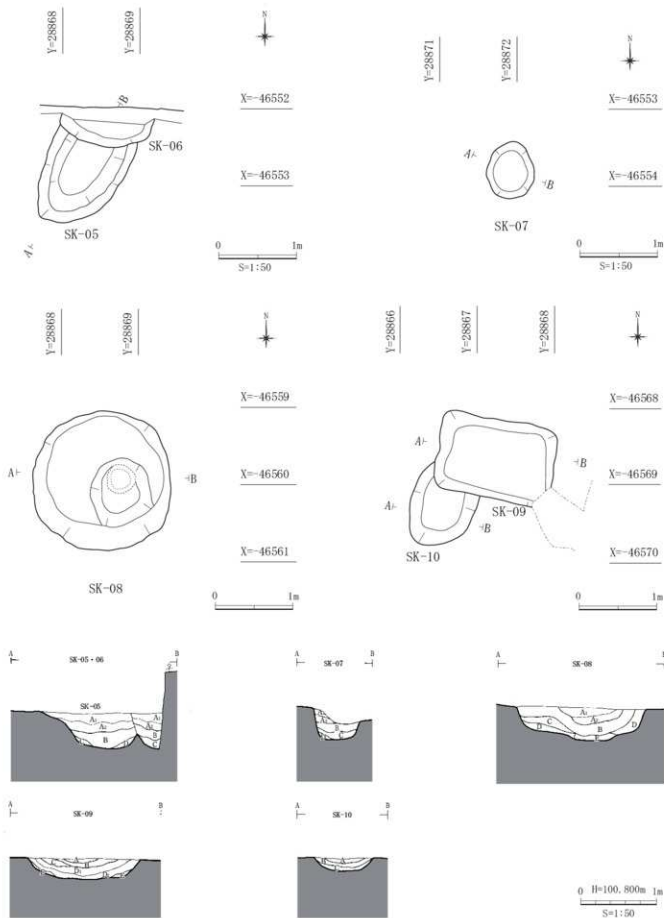


SB-09

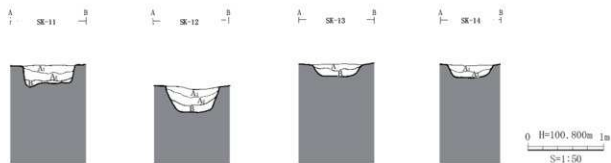
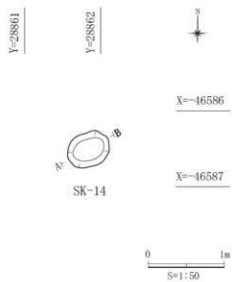
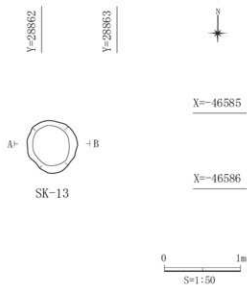
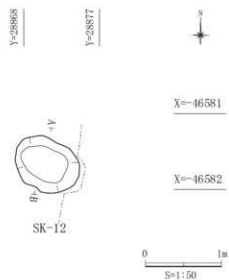
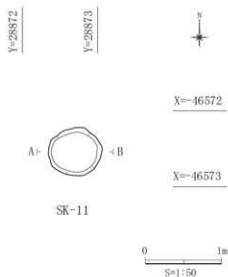


0 H=100, 800[m]
S=1:60

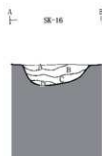
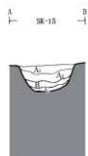
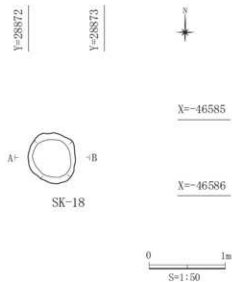
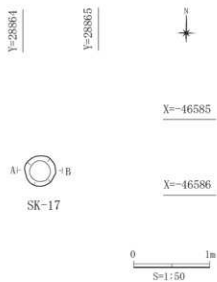
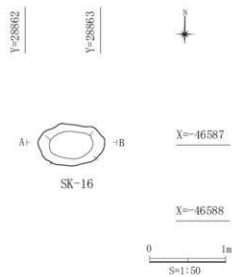
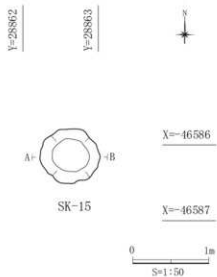
第13図 SB-07～SB-09 掘立柱建物跡 平面図・断面図



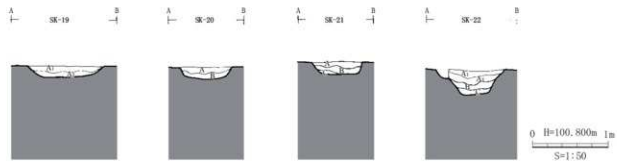
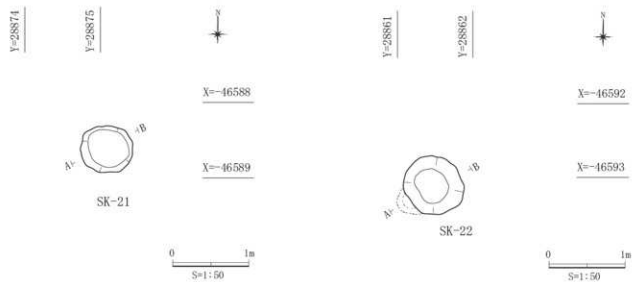
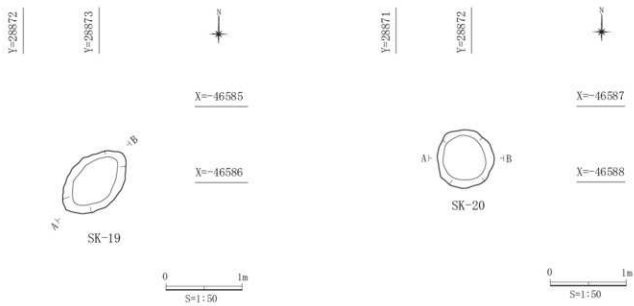
第14图 SK-05~SK-10 土坑跡 平面図・断面図



第15图 SK-11~SK-14 土坑跡 平面図・断面図



第16图 SK-15~SK-18 土坑跡 平面図・断面図



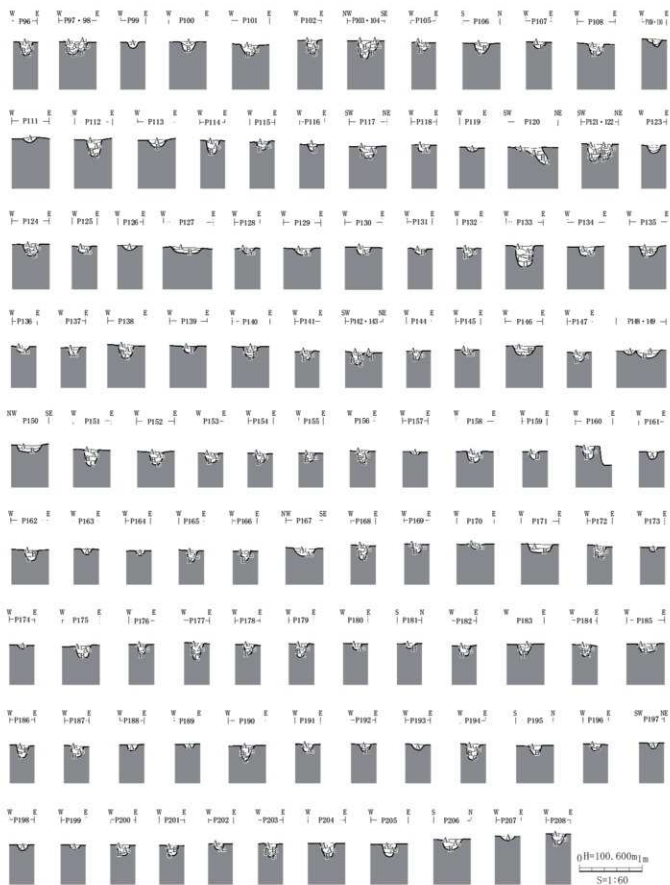
第17图 SK-19~SK-22 土坑跡 平面図・断面図

P96～P320 柱穴 (表8・第19図・第20図)

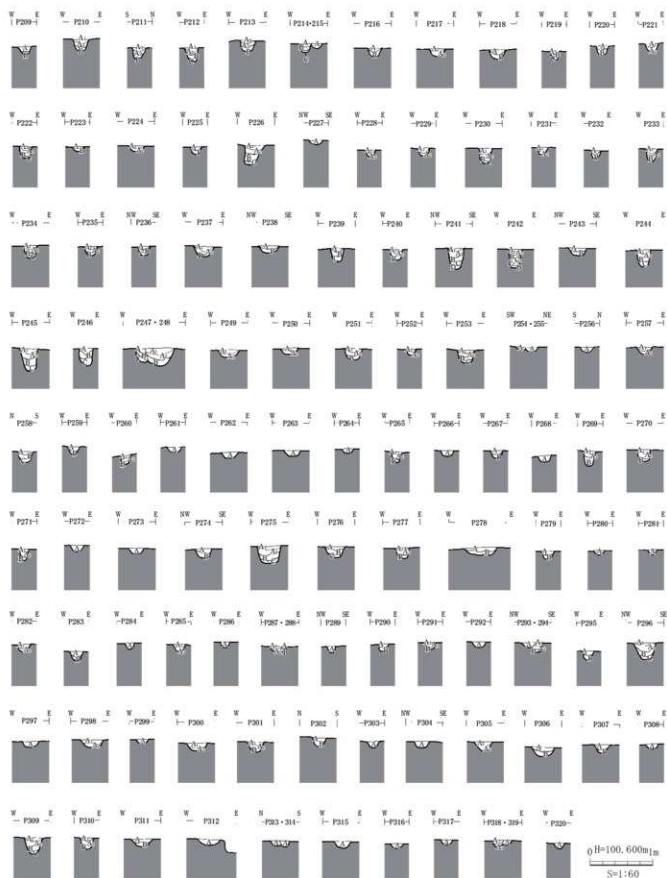
柱穴は224口検出した。また、埋土観察の結果、明確な柱痕跡を残すものは無かった。各柱穴の規模は次の通りである

No	上端 (m)	深さ (m)	No	上端 (m)	深さ (m)	No	上端 (m)	深さ (m)	No	上端 (m)	深さ (m)
P96	0.20	0.21	P153	0.22	0.15	P210	0.25	0.17	P267	0.19	0.12
P97	0.22	0.20	P154	0.19	0.15	P211	0.22	0.18	P268	0.21	0.10
P98	0.13以上	0.15	P155	0.16	0.13	P212	0.22	0.21	P269	0.20	0.24
P99	0.14	0.11	P156	0.18	0.20	P213	0.25	0.18	P270	0.21	0.20
P100	0.13	0.15	P157	0.14	0.05	P214	0.19	0.13	P271	0.14	0.18
P101	0.27	0.17	P158	0.23	0.17	P215	0.17	0.07	P272	0.22	0.10
P102	0.17	0.21	P159	0.16	0.12	P216	0.21	0.14	P273	0.24	0.09
P103	0.19	0.31	P160	0.19	0.20	P217	0.26	0.12	P274	0.27	0.15
P104	0.11以上	0.18以上	P161	0.16	0.11	P218	0.25	0.14	P275	0.39	0.27
P105	0.20	0.13	P162	0.22	0.17	P219	0.17	0.14	P276	0.32	0.17
P106	0.22	0.17	P163	0.16	0.09	P220	0.20	0.15	P277	0.22	0.17
P107	0.20	0.11	P164	0.14	0.07	P221	0.20	0.12	P278	0.52	0.12
P108	0.25	0.17	P165	0.17	0.18	P222	0.18	0.20	P279	0.21	0.12
P109	0.07以上	0.05	P166	0.17	0.15	P223	0.15	0.13	P280	0.17	0.08
P110	0.15	0.11	P167	0.35	0.12	P224	0.17	0.11	P281	0.14	0.08
P111	0.21	0.08	P168	0.21	0.23	P225	0.20	0.23	P282	0.20	0.12
P112	0.24	0.26	P169	0.16	0.13	P226	0.20	0.13	P283	0.21	0.15
P113	0.30	0.12	P170	0.22	0.08	P227	0.15	0.11	P284	0.14	0.10
P114	0.21	0.23	P171	0.38	0.13	P228	0.23	0.26	P285	0.19	0.11
P115	0.19	0.14	P172	0.18	0.18	P229	0.33	0.30	P286	0.15	0.09
P116	0.15	0.11	P173	0.13	0.07	P230	0.18	0.12	P287	0.19	0.08
P117	0.27	0.18	P174	0.15	0.06	P231	0.25	0.09	P288	0.08以上	0.08
P118	0.21	0.11	P175	0.24	0.18	P232	0.19	0.08	P289	0.13	0.10
P119	0.20	0.06	P176	0.15	0.17	P233	0.20	0.19	P290	0.16	0.12
P120	0.44	0.28	P177	0.18	0.26	P234	0.21	0.20	P291	0.18	0.11
P121	0.23	0.26	P178	0.17	0.16	P235	0.23	0.15	P292	0.22	0.09
P122	0.16以上	0.23	P179	0.21	0.22	P236	0.20	0.14	P293	0.23	0.08
P123	0.22	0.13	P180	0.17	0.10	P237	0.32	0.17	P294	0.11以上	0.15
P124	0.27	0.19	P181	0.16	0.09	P238	0.31	0.11	P295	0.19	0.14
P125	0.22	0.11	P182	0.20	0.15	P239	0.21	0.22	P296	0.35	0.27
P126	0.22	0.07	P183	0.22	0.20	P240	0.21	0.16	P297	0.26	0.09
P127	0.47	0.08	P184	0.17	0.19	P241	0.26	0.34	P298	0.37	0.13
P128	0.22	0.07	P185	0.32	0.14	P242	0.22	0.30	P299	0.18	0.06
P129	0.30	0.09	P186	0.21	0.18	P243	0.28	0.12	P300	0.32	0.12
P130	0.24	0.12	P187	0.21	0.16	P244	0.22	0.27	P301	0.27	0.16
P131	0.22	0.08	P188	0.17	0.09	P245	0.29	0.35	P302	0.21	0.14
P132	0.18	0.13	P189	0.17	0.07	P246	0.22	0.27	P303	0.18	0.10
P133	0.28	0.33	P190	0.22	0.25	P247	0.15以上	0.22	P304	0.24	0.10
P134	0.25	0.13	P191	0.18	0.12	P248	0.47	0.29	P305	0.29	0.14
P135	0.29	0.15	P192	0.18	0.11	P249	0.35	0.12	P306	0.36	0.14
P136	0.22	0.18	P193	0.20	0.08	P250	0.28	0.10	P307	0.25	0.14
P137	0.20	0.14	P194	0.22	0.25	P251	0.29	0.18	P308	0.20	0.08
P138	0.25	0.22	P195	0.21	0.15	P252	0.16	0.10	P309	0.30	0.36
P139	0.21	0.10	P196	0.18	0.11	P253	0.29	0.20	P310	0.22	0.18
P140	0.23	0.18	P197	0.15	0.09	P254	0.15以上	0.05	P311	0.33	0.12
P141	0.18	0.14	P198	0.17	0.09	P255	0.20	0.07	P312	0.35	0.09
P142	0.18	0.19	P199	0.16	0.07	P256	0.20	0.08	P313	0.15以上	0.08
P143	0.12	0.16	P200	0.20	0.17	P257	0.24	0.11	P314	0.16	0.10
P144	0.15	0.15	P201	0.18	0.15	P258	0.24	0.18	P315	0.27	0.11
P145	0.18	0.09	P202	0.17	0.1	P259	0.20	0.13	P316	0.20	0.07
P146	0.36	0.15	P203	0.18	0.21	P260	0.17	0.14	P317	0.18	0.07
P147	0.22	0.14	P204	0.25	0.23	P261	0.22	0.08	P318	0.19	0.10
P148	0.18	0.06	P205	0.25	0.2	P262	0.27	0.09	P319	0.13以上	0.07
P149	0.39	0.11	P206	0.34	0.17	P263	0.26	0.10	P320	0.17	0.09
P150	0.38	0.09	P207	0.23	0.06	P264	0.18	0.07			
P151	0.22	0.26	P208	0.22	0.18	P265	0.17	0.17			
P152	0.22	0.20	P209	0.21	0.12	P266	0.20	0.09			

表8 P96～P320 柱穴 規模一覧表



第19图 P96~P208 柱穴 断面图



第20图 P209~P320 柱穴 断面图

(2) 出土遺物

今調査区Ⅲ区から、縄文土器、土師器、国産陶磁器、石製品、鉄製品、ガラス製品などがコンテナで1箱出土した。その内、実測可能な出土遺物16点を図化し掲載した。

縄文土器 (第21図)

埋土から2点。1は深鉢の体部である。縦3.9cm、横5.6cm厚さ0.9cmをはかる。2は深鉢の体部である。縦3.2cm、横4.1cm厚さ0.6cmをはかる。

土師器 (第21図)

SK-21 (土坑跡) から5点。3は甕の口～体部で口径が15.2cmをはかり、口縁部にヨコナデ調整が施される。4は甕の体部で外面ヘラナデ・ヘラケズリ調整、内面ヘラケズリ調整が施される。5は甕の体部で外面ヘラナデ・ヘラケズリ調整、内面ヘラナデ調整が施される。6は甕の体部で外面ヘラケズリ調整、内面ヘラナデ調整が施される。7は甕の体部で外面ヘラケズリ調整、内面ヘラナデ調整が施される。検出面から3点。8は甕の口～体部で内外面ヨコナデ調整が施される。9は甕の体部で外面ヘラケズリ調整、内面ヘラナデ調整が施される。10は甕の体部で外面ヘラケズリ調整、内面ヘラナデ調整が施される。

国産陶磁器 (第21図)

SE-02 (井戸跡) から3点。11は肥前産染付小型碗の体部～底部で縦2.4cm横3.6cm、厚さ0.3cmをはかる。12は近現代の水差しの体部で縦6.4cm横3.3cm、厚さ0.5cmをはかる。13は近世以降の飯茶碗の手書きである。ほぼ完形品で縦6.4cm横11.4cm、厚さ0.5cmをはかる。

石製品 (第22図)

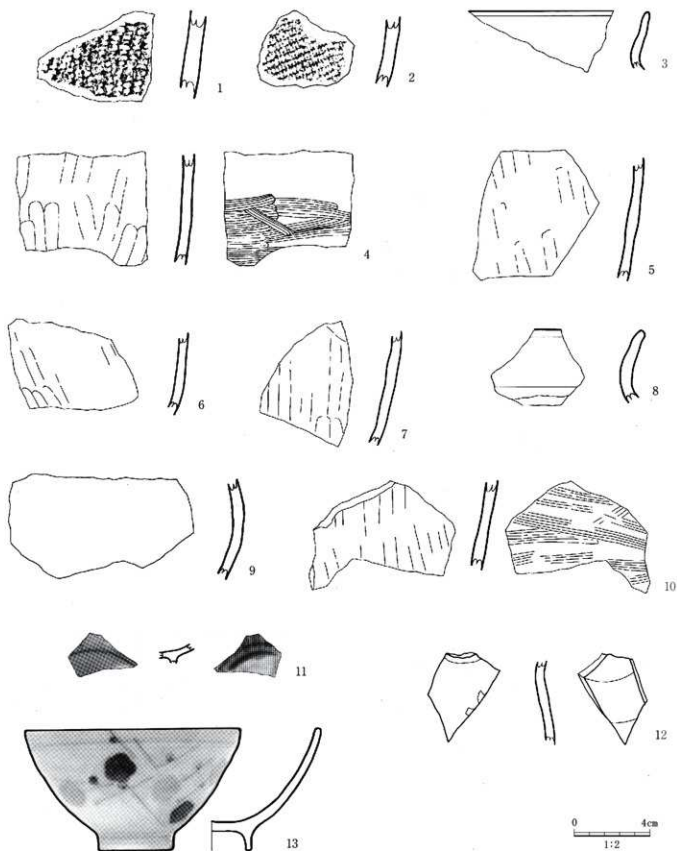
SK-10 (土坑跡) から1点。14は凹石で縦8.6cm横6.4cm、厚さ2.3cmをはかる。中央下部に窪みを有する。

ガラス製品 (第22図)

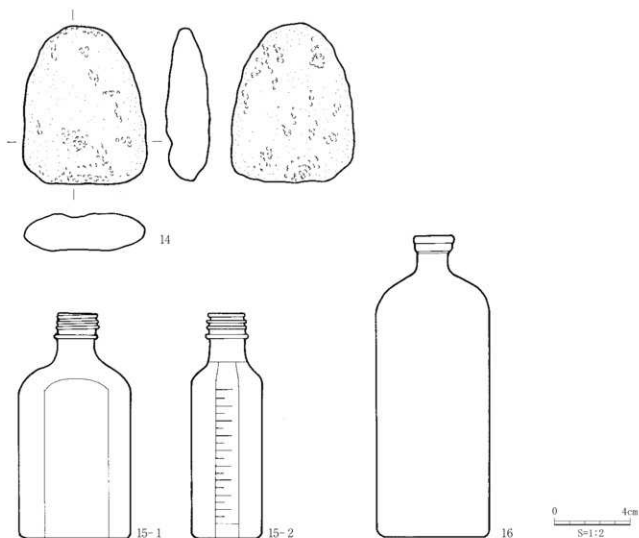
SE-02 (井戸跡) から2点。15は一般用薬瓶で縦11.9cm横5.9cm、厚さ0.4cmをはかる。ガラスは褐色半透明で、形状は八角形である。16は一般用薬瓶で縦16cm、横6cm、厚さ0.3cmをはかる。ガラスは淡緑色透明に気泡が入り、形状は円柱状で、底部の直径が6cmをはかる。

縄文土器										
番号	品類	遺物名	出土位置	形状	部位	縦 (cm)	横 (cm)	厚さ (cm)	備考(%)	備考
1	深鉢	—	埋土	—	体部	3.9	5.6	0.9	—	縦径調整、底又は中央部(1X2)、調整
2	深鉢	—	埋土	—	体部	3.2	4.1	0.6	—	底、調整
土師器										
番号	品類	遺物名	出土位置	形状	部位	口径 (cm)	縦 (cm)	横 (cm)	厚さ (cm)	備考
3	甕	SK-21	円筒	口ノリ	11～体部	15.2	3.1	7.4	0.5	1口縁部ヨコナデ調整
4	甕	SK-21	円筒	口ノリ	体部	—	5.8	6.8	0.5	外面ヘラナデ・ヘラケズリ調整、内面ヘラケズリ調整
5	甕	SK-21	八角形	口ノリ	体部	—	6.6	6.1	0.5	外面ヘラナデ・ヘラケズリ調整、内面ヘラナデ調整
6	甕	SK-21	八角形	口ノリ	体部	—	4.7	6.2	0.5	外面ヘラケズリ調整、内面ヘラナデ調整
7	甕	SK-21	八角形	口ノリ	体部	—	4.6	4.7	0.5	外面ヘラケズリ調整、内面ヘラナデ調整
8	甕	検出面	—	口ノリ	11～体部	—	4.1	4.9	0.6	内外面ヨコナデ調整
9	甕	検出面	—	口ノリ	体部	—	5.3	5.9	0.5	外面ヘラケズリ調整、内面ヘラナデ調整
10	甕	検出面	—	口ノリ	体部	—	4.3	7.3	0.6	外面ヘラケズリ調整、内面ヘラナデ調整
国産陶磁器										
番号	品類	遺物名	出土位置	形状	縦 (cm)	横 (cm)	厚さ (cm)	形状	備考	
11	碗	SE-02	円筒	口ノリ	2.4	3.6	0.3	肥前産	調整面調整、1口縁部	
12	水差し	SE-02	八角形	口ノリ	6.4	3.3	0.5	調整面調整	調整面調整	
13	碗	SE-02	八角形	口ノリ	6.4	11.4	0.5	11.7cm調整	調整面調整	
石製品										
番号	品類	遺物名	出土位置	形状	縦 (cm)	横 (cm)	厚さ (cm)	形状	備考	
14	凹石	SK-11	八角形	凹	8.6	6.4	2.3	凹	中央下部に窪みあり	
ガラス製品										
番号	品類	遺物名	出土位置	形状	縦 (cm)	横 (cm)	厚さ (cm)	形状	備考	
15	瓶	SE-02	八角形	八角形	11.9	5.9	0.4	八角形	一般用薬瓶、ガラスは褐色半透明、形状は八角形	
16	瓶	SE-02	円筒	円筒	16	6	0.3	円筒	一般用薬瓶、ガラスは淡緑色透明、形状は円筒状	

表9 出土遺物一覧表



第21图 出土遺物① (1:2)



第22図 出土遺物② (1:2)

4 まとめ

稲村I遺跡第2次調査では、掘立柱建物跡7棟、土坑跡22基、溝跡2条、井戸跡3基、不明遺構1基、柱穴320口を検出した。遺物は、縄文土器、土師器、石製品、国産陶磁器、鉄製品、ガラス製品などがコンテナで1箱半出土した。

・掘立柱建物跡

調査区I区から3棟 (SB-03・SB-04・SB-05)、調査区II区から1棟 (SB-06)、調査区III区から3棟 (SB-07・SB-08・SB-09) を検出した。平面形・棟方向は、SB-03-桁1間・梁間1間 (長方形)・N10° E、SB-04-棟・方向 E17° S、SB-05-桁行5間・梁間1間 (長方形)・N113° E、SB-06-桁2間・梁間1間 (長方形)・N10° E、SB-07-桁2間・梁間1間 (長方形)・N19° E、SB-08-桁2間・梁間1間 (長方形)・N12° E、SB-09-桁2間・梁間1間 (長方形)・N24° Eをはかる。また、棟方向を比較すると、SB-03・SB-05・SB-06・SB-08 (N10° W~N13° W)、SB-7・SB-09 (N17° W~N23° W)、SB-04 (E10° N) の三時期に区分されるものと推測される。各掘立柱建物跡の埋土から遺物が出土していないため、詳細は不明である。

・土坑跡

調査区Ⅰ区から3基 (SK-03～SK-05)、調査区Ⅱ区から1基 (SK-04)、調査区Ⅲ区から3基 (SK-05～SK-22) を検出した。また、平面形はSK-01・SK-07・SK-08・SK-15・SK-17・SK-18・SK-20・SK-21・SK-22は不整形円形、SK-02～SK-06・SK-10・SK-12・SK-14・SK-20は不整形円形、SK-09は不整形長方形である。SK-12から土師器坏が出土している。この土器の特徴から、奈良時代（8世紀後半頃）に属するものと思われる。

・溝跡

調査区Ⅱ区から1条 (SD-02)、調査区Ⅲ区から1基 (SD-03) 検出した。規模は、SD-02全長0.79m以上・上端0.28m～0.30m、SD-03全長20.63m以上・上端幅0.49m～0.65mをはかる。各溝跡の埋土から遺物が出土していないため、詳細は不明である。

・井戸跡

調査区Ⅱ区から1条 (SE-01)、調査区Ⅲ区から2基 (SE-02・SE-03) 検出した。平面形・規模は、SD-01が不整形円形・上端0.98m～1.17m以上で埋土は自然堆積、SE-02が不整形円形・上端1.51m～1.65mで埋土は人為堆積、SE-03が不整形円形・上端0.89m～0.99mで埋土は自然堆積である。SE-02の中層から上層にかけて、肥前産染付皿や一般薬用瓶などが出土していることから19世紀以降と推測される。SE-01・SE-03から遺物が出土していないため詳細は不明である。

今回の稲村Ⅰ遺跡では、出土遺物が非常に少なく詳細は判然としない。しかし、当調査区の北西側に位置する稲村Ⅱ遺跡（1996・1997・1999（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）から竪穴建物跡が27棟検出されており、8世紀の集落跡であることがわかっている。当調査区はそこから約500mの地点に位置することと、SK-21土坑跡埋土から、同時期の土師器甕が出土されたことから、稲村Ⅱ遺跡の集落跡がさらに南東に延びる可能性が高まる。また、当調査区西側（現国道4号脇の畑）の稲村Ⅱ遺跡試掘調査（平成27年 紫波町教育委員会）を実施した際、8世紀の遺構及び遺物が検出されている。今後、近接する遺跡調査の成果をまち、新たな遺跡の相及び性格が解明されることを期待したい。

<引用・参考文献>

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1972 紫波町 | 「紫波町史」第1巻 |
| 1981（財）岩手県埋蔵文化財センター | 「国道4号線矢巾地区改修工事関連遺跡調査報告書—紫波町稲村・中田・古屋敷遺跡」 |
| 1996・1997・1999（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | 「稲村Ⅱ遺跡発掘調査報告書」 |
| 1985 紫波町教育委員会 | 「中田遺跡発掘調査報告書」 |
| 2016 紫波町教育委員会 | 「町内遺跡発掘調査報告書Ⅳ」 |
| 2021 盛岡市教育委員会 | 「西南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅶ」 |

写 真 图 版



稲村 I 遺跡 空撮



調査区 全景

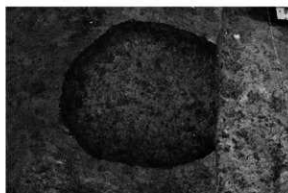


調査区Ⅰ区 全景



調査区Ⅱ区・Ⅲ区 全景

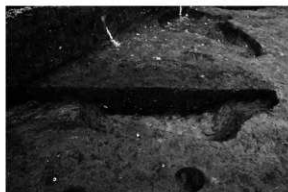
第2図 調査区Ⅰ区 全景 調査区Ⅱ区・Ⅲ区 全景



I区 SK-01 土坑跡 完掘



I区 SK-02 土坑跡 断面



I区 SK-03 土坑跡 断面



I区 SK-03 土坑跡 完掘



I区 SX-01 不明遺構 断面



I区 SX-01 不明遺構 完掘



I区 作業風景



II区 SK-04 土坑跡 断面



II区 SK-04土坑跡 完掘



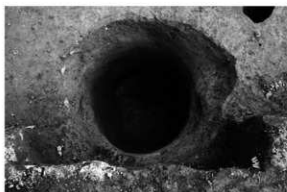
II区 SD-02 溝跡 断面



II区 SD-02溝跡 完掘



II区 SE-01 井戸跡 断面



II区 SE-01 井戸跡 完掘



Ⅲ区 SK-05·06 土坑跡 断面



Ⅲ区 SK-05·06 土坑跡 完掘



Ⅲ区 SK-09 土坑跡 断面



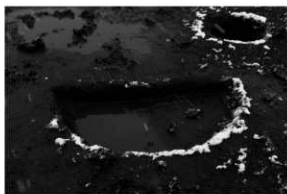
Ⅲ区 SK-09 土坑跡 完掘



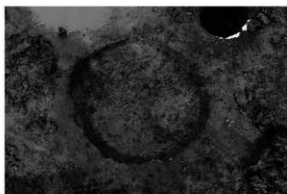
Ⅲ区 SK-11 土坑跡 断面



Ⅲ区 SK-11 土坑跡 完掘

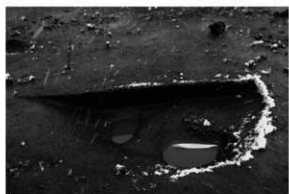


Ⅲ区 SK-14 土坑跡 断面



Ⅲ区 SK-14 土坑跡 完掘

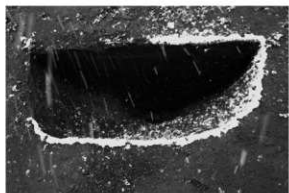
第5図版 Ⅲ区 SK-05·06、SK-09、SK-11、SK-14 土坑跡 断面・完掘



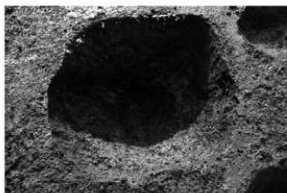
Ⅲ区 SK-15 土坑跡 断面



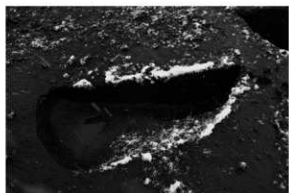
Ⅲ区 SK-15 土坑跡 完掘



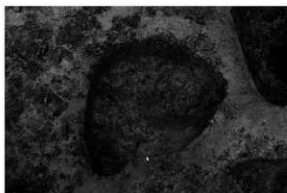
Ⅲ区 SK-16 土坑跡 断面



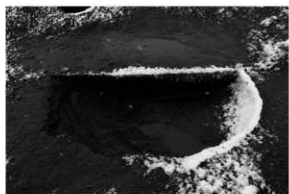
Ⅲ区 SK-16 土坑跡 完掘



Ⅲ区 SK-17 土坑跡 断面



Ⅲ区 SK-17 土坑跡 完掘



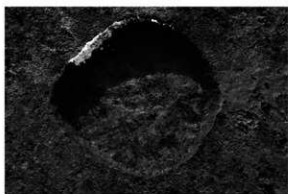
Ⅲ区 SK-19 土坑跡 断面



Ⅲ区 SK-19 土坑跡 完掘



Ⅲ区 SK-21 土坑跡 断面



Ⅲ区 SK-21 土坑跡 完掘



Ⅲ区 SD-03 溝跡 断面



Ⅲ区 SD-03 溝跡 完掘



Ⅲ区 SE-02 井戸跡 断面



Ⅲ区 SE-02 井戸跡 完掘



Ⅲ区 SE-03 井戸跡 完掘



Ⅲ区 作業風景



1



2



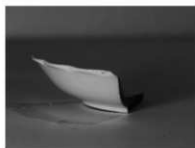
3



4



5



6



7

第8图版 I区 出土遗物



1



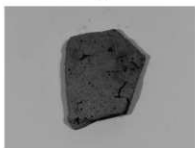
2



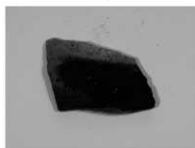
3



4



5

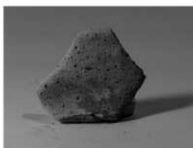


6

第9图版 III区 出土遗物①



7



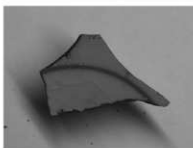
8



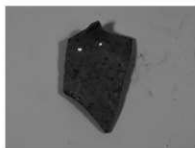
9



10



11



12



13



14



15- 1



15- 2



16

抄 録

ふりがな	いなむらいちいせき ーだいにじはっくつちようさほうこくしょー							
書名	稲村1遺跡 ー第2次発掘調査報告書ー							
副書名								
巻次								
シリーズ名	岩手県紫波町埋蔵文化財報告書2022							
シリーズ番号								
編集者名	鈴木 賢治							
編集機関	紫波町教育委員会							
所在地	岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目3番地1							
発刊年月日	令和5年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
稲村1遺跡 第2次調査	岩手県紫波郡 紫波町高水寺字 欠上り地内		LE57-2101	39° 34' 47"	141° 10' 9"	R3.10.25 ～ R3.12.13	1235.3㎡	緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
稲村1遺跡 第2次調査	集落跡	奈良時代 ～ 平安時代	掘立柱建物跡 土坑跡 溝跡 井戸跡 柱穴	土師器 甕 国産陶磁器 石器 縄文土器 ガラス製品				

稲村 I 遺跡 —第 2 次発掘調査報告書—

令和 5 年 3 月 31 日

- 編 集 紫波町教育委員会
〒028-3392 岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目 3 番地 1
TEL 019-672-2111(代) FAX 019-672-1553
- 発 行 株式会社みちのくクボタ
紫波町教育委員会
- 印 刷 永代印刷株式会社
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡一丁目 8-30
TEL 019-636-0011 FAX 019-636-0099
-